防災塾　実施報告書

烏山総合支所地域振興課
上北沢まちづくりセンター

(1) 実施日　令和6年1月20日(土曜日) 午前10時～正午
(2) 場所　　上北沢まちづくりセンター　地下活動フロア
(3) 参加人数　22人
(4) テーマ
　【サテライトを知ろう！　震災時　避難所との関係と役割】
(5) 実施内容
　① 開会挨拶

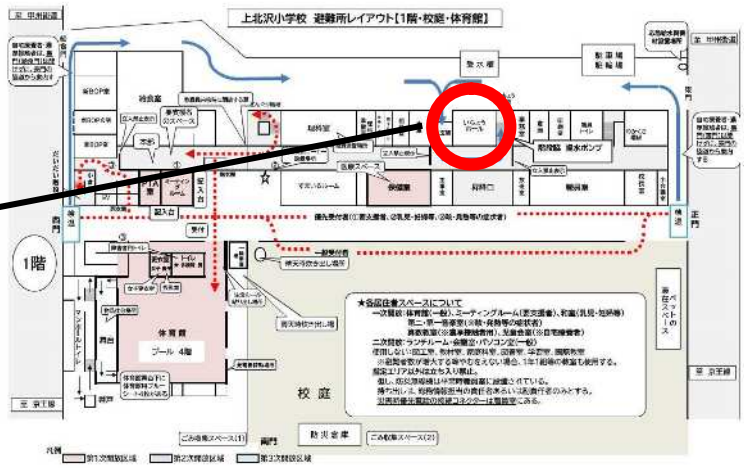
　② 講義「サテライトを知ろう！　震災時　避難所との関係と役割」
　　講師：世田谷ボランティア協会　横山　康博　氏

　③ 意見交換　避難所と災害ボランティアとの連携について
　・避難所毎にサテライト設置場所について意見交換を実施

　④ 閉会挨拶

(6) 成果物
【サテライト設置候補場所】
・上北沢小学校

「1階　いちょうホール」



・八幡山小学校

案①「1階　クワイエットルーム」

案②「1階　理科室正面の教室」

【講義の様子】

【意見交換の様子】

【意見交換内容発表】

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

令和5年度上北沢地区防災塾

サテライトを知ろう!

避難所との関係と役割

社会福祉法人世田谷ボランティア協会
せたがや災害ボランティアセンター

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

被災地の災害対策活動 初動

●緊急作業

救急救助／消火、危険個所・物の除去／道路・通信・ライフラインの復旧

●命を守るための緊急活動

○避難場所・避難先の確保／安否確認／飲食・睡眠・排泄の確保
○入院患者、介護・福祉施設入所者等の安全確保
○緊急の救急体制
▶行政がタテ／ヨコに連携し、警察、消防、自衛隊、土木・運送業者、医療・介護福祉組織等の協力を得て取り組む

◎そのあとに、住民の復旧作業が始まる。《ボランティアの支援》

大きな災害ほど、ボランティアの初動はタイミングを見計らって。

1

◆被災地のボランティア対策

第１　はじめに（被災地から見たボランティアとの関係）

○ボランティアには来てほしい
○ボランティアにすぐ来られても支障になる
○支援を希望する人にボランティア支援が届くようにしたい
○ボランティアが知らない町に来てもスムーズに活動できるようにしたい
○必要な限り、できるだけ継続的に支援してほしい

第２　災害ボランティアセンターの立ち上げ

災害発生から3日～1週間ほどの間に災害ボラセンを立上げ

2

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

第３　災害ボランティアセンターの役割

１　適確な情報発信

(1)　まだ来ないでほしい発信
(2)　来てほしい発信
(3)　活動情報発信

２　ボラセン受付による安心

(1)　不審者？不安の払しょく
　被災者にとってもボランティアにとっても重要
　※結果的に不審者排除の効果
(2)　ボランティア登録によって、様々な事象に支援対応ができる。

3

◆災害ボランティアセンターの抱える課題

1　拠点をどこに

※大勢の受付ができる場所・スペース

※被災者との調整活動等を行う場所スペース

2　活動人材をどうするか

3　活動ノウハウは

4　継続性

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

3　ボラセンの<u>調整活動</u>により、円滑な支援活動を実現

(1)　被災者からの支援要請とりまとめ

（2）　ボランティアへの活動要請

4　<u>相談対応</u>

ボランティア活動、ボランティア支援に関する各種の問合せ、相談に対応。

◆被災地のボランティア対策

1　拠点、活動人材、ノウハウのどれを欠いても、災害ボラセンとしての活動がなりたたない。

2　過去にみられたケース

・なかなか災害ボラセンが立ち上げられない
・災害ボラセンを立ち上げても活動人材がいない
　⇒ボランティア募集の前に、コーディネーターを募集
・活動ノウハウがない
　⇒経験のある外部のNPO等に依存
・ボランティア活動の充実性、継続性に欠ける
　ボランティアが集まらない
　災害ボラセンも早々に閉鎖

6

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

◆世田谷区の災害ボランティア受入体制

7

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

1　本部、マッチングセンター、サテライトの三点拠点方式

震災時のせたがや災害ボランティアセンターの実働		
本部の役割	▶	全体のコントロール
ボランティアの受付はどこで	▶	地域に一つのマッチングセンター（原則）
支援ニーズの受付はどこで	▶	区内に複数のサテライト
マッチングはどこで	▶	サテライト
ボランティアにとっての活動拠点は	▶	サテライト

災害時に指定小・中学校には サテライト と 指定避難所 が設置されます

◆本部、マッチングセンター、サテライトの活動人材

①世田谷ボランティア協会職員

②コーディネーター登録者（地元ボランティア）

③コーディネーター補助者（地元ボランティア）

④その他協力者

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

◆コーディネーターの登録・人材育成

1　地元ボランティアとしてのコーディネーター

2　基礎講座の受講とコーディネーター登録

3　スキルアップ講座

4　コーディネーターの日常活動

◆避難所の実像

○地元の被災者を受け入れて、しばらくの**間避難生活の場**となるところ。

○その地区に対する**支援物資が集まり、配布される拠点**となるところ

○地元の被災者が様々な**情報を求めて**集まってくるところ

○いろいろな団体・個人が炊き出し、慰問、様々な**ケアの提供を申し出**て集まってくるところ

12

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

◆避難所の課題

1 避難者の増減とその把握

2 避難所生活物資の確保・保管・配布

3 避難者の生活環境の維持ないし改善

4 体調不良者等への対応

5 情報の提供

6 防犯

13

◆サテライトと避難所の関係

1　ボランティアの支援活動

- 在宅避難に向けた室内片付け、簡易補修
- 子どもへのケア
- 物資の運搬、整理
- 調理・配食の手伝い
- その他、避難所が直面する課題の内ボランティアによる対応が可能なこと

14

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

2　避難所からの支援要請の方法

避難所のボランティア担当者から
サテライトへ要請

▶コーディネーターとボランティア担当者の協議

▶ボランティアによる支援方法の決定

15

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

サテライトの設置場所

1　三つのスペース
（事務、ボランティア、資材）

2　広さ

3　位置

16

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

休　憩

10分後に再開します

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

グループワーク

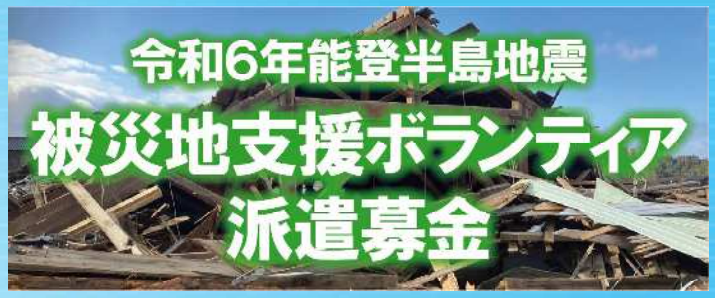
避難所と災害ボランティアとの連携について

せたがや災害ボランティアセンター Setagaya Disaster Volunteer Center

ご参加ありがとうございました！

アンケートにご協力ください

＜せたがや災害ボランティアセンターからのお知らせ＞



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日　付	令和6年1月20日
地　区	上北沢

１－１）ご自身について（性別）

	①男性	②女性	③未記入等
数	6	5	

１－２）ご自身について（年齢）

	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代以上
数				1		4	2	4

１－３）ご自身について（職業）

	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数		3		2		2	4	

2　今まで参加した防災塾の開催年度について

	①令和元年度（平成３１年度）以前	②令和２年度	③令和３年度	④令和４年度
数	6	1	2	1

2　今まで参加した防災塾の開催年度について

	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない
数	2	6	2		

4　上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。

はじめて聞いた用語があったので、ちょっと戸惑った。

まだまだ十分とは言えないが、回を重ねていけばよいと思います

避難所運営訓練だけではわからなかったことを知ることができたが、新しく知ったこと（共有した情報など）があったため意見交換までは充分にできなかった。

5　防災塾に参加して学んだことや気づいたこと

	数		数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	2	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	3
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	2	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	3
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	6	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	2
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	4		

6　今後の希望する「防災塾」の進め方について

	数		数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	4	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	6
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	1	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	7
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	2	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	4
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	2	⑨その他（ ）	0
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	4		

7　地区防災計画制度がつくられたが、本制度の内容はご存知ですか。

	数		数
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	3	④言葉は聴いたことがあるが詳しくは知らない。	2
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	2	⑤全く知らない。	0
③防災塾で説明を聴いたことがあり、ある程度は知っている。	4		

8　平成２９年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。

	①知っていた	②知らなかった
数	4	4

9　地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと

	数		数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険個所や地域資源の発見と整理	5	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	2
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	0	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	2
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	4	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	3

＜その他＞トイレ問題

１０　防災塾に継続して参加したいと思いますか。

	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	4	5		1	

１１　「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。

警察、消防の出席もあればと思う

サテライトについての予備知識がなかったため、話し合いの時、混乱が生じました。

能登半島地震は起きた直後の今だからこそ、防災についての知識、実際の動きなどを広く周知する努力が必要だと感じた（ボランティアについても含めて）

サテライトを知ることができたのは良かったが、実際に現場でも混乱を招かないか心配な点がある。

防災塾　実施報告書

烏山総合支所地域振興課
上祖師谷まちづくりセンター

１　実施日

令和５年１２月９日（土曜日）午前１０時～１２時

２　場所

粕谷区民センター　2 階多目的室

３　参加人数

合計２９人　（内訳）参加者２１人、講師等２人、区職員６人

＜参加団体＞

上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、成城通りパークウエスト自治会、粕谷会、粕谷 2 丁目アパート自治会、成城消防団第三分団、成城消防団第七分団、民生委員・児童委員協議会、赤十字奉仕団上祖師谷分団、粕谷商誠会、上祖師谷あんしんすこやかセンター

４　テーマ

７２時間後の避難生活と共助について

５　実施内容

（１）開会挨拶（烏山総合支所地域振興課長　大谷　昇）

防災塾開催の経緯、趣旨説明等

（２）令和５年度実績報告「上祖師谷地区避難所運営訓練について」

（上祖師谷まちづくりセンターまちづくり・防災担当係長　富永　純子）

・烏山小学校、芦花小学校・芦花中学校は、今年度も避難所開設訓練と避難所体験＆防災フェスを実施し、多くの方に来場してもらった。

・上祖師谷中学校は、生徒を避難者に見立てて、運営委員が生徒に教えながら開設訓練を行った。

・その他、防災資機材の講習会や研修について報告。

（３）講演「７２時間後の避難生活と共助について」

講師：せたがや防災ＮＰＯアクション代表　宮﨑　猛志

【講演内容（要旨）】

●首都直下型地震を読み解く

・直下型地震とプレート型地震で被害想定域が違うことで、支援の手が届くま

での時間が変わる。
・「避難行動」と「避難生活」の違いを意識する。
・被災直後は「公助」は及ばないため何より「自助」が大切。そして「自助」で生き残った人を「共助」で助けていく。

●避難生活を考える
・在宅避難では生活用水の確保が難しく、トイレ問題も重要。また、障害の有無やアレルギー対策など個別事情による物品等の準備も必要。
・在宅と避難所以外の避難方法の選択肢。
・将来的には、元気な人は在宅避難で、障害等支援が必要な人は集中的にサポートできるよう避難所でとなるかもしれない。

●共助の形を考える
・世田谷区の支援体制や、災害時ボランティア等連絡会議（四者連携）の紹介
・困っている人がいても声があがっているという情報がないと、支援が一部に偏ってしまう。支援が必要な人を見逃さないためにも、町会自治会、まちセンや社協、あんすこ、ＮＰＯ等に情報を挙げてほしい。
・在宅避難にも孤立や情報の偏りなどさまざまな課題がある。避難所は被災生活者への物資や情報の支援拠点としてどう利用していくか。

（４）意見交換
・避難所ごとの３班に分かれて、「在宅避難支援を考える」をテーマに、在宅避難をする立場から「在宅避難の課題」、避難所で支援する側の立場から「避難所での在宅避難者対応」について、班内でそれぞれ意見を出し合った。

（５）発表・講師コメント
・地区内の避難所運営委員より、各班で出た意見をまとめて発表。

【Ａ班（烏山小学校避難所）からの意見】
・余震が何度か発生した場合、在宅避難は続けられなくなる可能性がある。
・発災の時期や時間、家庭の状況等によって備蓄内容は違う。どの程度、何を準備したらいいのかわかりにくいので、もっとＰＲしてほしい。また、避難所で物資や充電の支援を受けられることを知らない人も多い。
・近隣の人の様子に気付くことが大切だが、普段の生活時間が違うため、近所でも知らない場合が多く、声をかけていいものか悩む。
・避難所は人材不足で支援できることは限られてしまうのではないか。
・他の避難所運営委員とも情報交換や課題等を話し合う場があるとよい。

【Ｂ班（上祖師谷中学校避難所）からの意見】
・在宅避難中、小さい子ども関係の物資はどこで入手できるのか、必要な物資を上手に入手するにはどうすればいいのか。
・普段飲んでいる薬の不足や歯痛など急な病気になった時がとても心配。

・避難所自体知らない人もいる。いろいろな避難所や避難方法等の周知、情報提供が必要。
・困っている人の相談をどこにつないでいいのか、被災後の独居の高齢者への心身的ケアなどの課題がある。
・避難所での物資配分の方法、外国人の避難者、ペットの受入れ、苦情などさまざまなケースに対応する必要がある。

【Ｃ班（芦花小学校・芦花中学校避難所）からの意見】
・近所付き合いがあまりないため独居の方が心配だが、高齢者等の要支援者が見えていない。
・在宅避難とした場合、備蓄が足りるのか、電気やトイレ等の使用可否、情報収集の方法、集合住宅の高層階に居住の高齢者への物資が届けられるかといった不安がある。都営粕谷 2 丁目アパートなど、被災後住宅自体は住めてもエレベーターが利用できなければ、結局避難所生活になってしまうのではないか。また、エレベーターが使用できない時の高層階住民の安否確認、救助等の役割を事前に決めておく必要がある。
・道路状況にもよるが、避難所にちゃんと物資は届くのか。また、届いた後、人手不足や避難所運営で手一杯で対応できるのか、また避難者に配給方法など納得してもらえるかどうか。

【講師からのコメント】
・避難所に限らず人手不足ということはどこでもあるが、ちゃんと助けてくれる「プレイヤー」としての人材はいる。避難所運営委員は「プレイヤー」になるのではなく、「マネージメント」をすることが大事。避難所では避難者に開設方法や運営のやり方を教えて、運営をやってもらう方向に移行しつつある。
・今回の意見交換での意見は、全区的なものが多かったが、上祖師谷地区での個別の課題等があれば、遠慮なく言ってほしい。

（６）閉会挨拶（上祖師谷まちづくりセンター所長　小林　隆広）
・今年度も地区の「まちづくり」だけでなく、「防災」にもご協力いただいた。防災塾は、年１回地区の皆さんが集まるいい機会でもあるため、いただいた意見は、発災時に活かせるようまちづくりセンターとしても取り組んでいく。引き続き、地区の防災活動や避難所運営でご協力をお願いしたい。

【上祖師谷地区防災塾の様子　令和５年１２月９日（土曜日）】

■講演

■意見交換

■各班発表・講師からのコメント

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日　付	令和5年12月9日
地　区	上祖師谷

1－1）ご自身について（性別）

	①男性	②女性
数	18	4

1－2）ご自身について（年齢）

	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代以上
数			2		2	9	9	

1－3）ご自身について（職業）

	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦	⑦無職	⑧その他
数								

2　今まで参加した防災塾の開催年度について

	①令和元年度（平成３１年度）以前	②令和3年度	③令和4年度
数	9	15	17

3　防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。

	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない
数					

4　上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。

5　防災塾に参加して学んだことや気づいたこと

	数		数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	10	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	9
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	12	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	2
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	15	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	3
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	15		

6　今後の希望する「防災塾」の進め方について

	数		数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	5	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	7
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	9	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	7
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	4	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	8
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	6	⑨その他（　　）	
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	8		

7　地区防災計画制度がつくられたが、本制度の内容はご存知ですか。			
	数		数
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	12	④言葉は聴いたことがあるが詳しくは知らない。	5
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	3	⑤全く知らない。	1
③防災塾で説明を聴いたことがあり、ある程度は知っている。	6		

8　平成２９年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。		
	①知っていた	②知らなかった
数	11	10

9　地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと			
	数		数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険個所や地域資源の発見と整理	9	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	4
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	9	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	7
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	7	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	8
＜その他＞・各避難所の連携、情報共有を行う会議			

１０　防災塾に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	12	7		1	1

１１　「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。
・基本に戻って対応が必要。
・住民を集めての防災塾も必要ではないかと思う。
・地域で活動しているさまざまな団体（グループ）の方たちに防災塾に参加してもらう。
・平日は仕事、土日もいろいろイベントがあるため、防災塾の開催日は考慮してほしい。

防災塾　実施報告書

烏山総合支所地域振興課
烏山　まちづくりセンター

（１）実施日　令和５年１１月２５日（土曜日）午後２時～４時３０分
（２）場所　　烏山中学校ランチルーム
（３）参加人数　１５人
（４）テーマ
　　ｉ　共助で守る烏山の命
（５）実施内容
　　①開　会
　　②挨　拶
　　③防災塾について
　　④講　義
　　・震災時の避難形態について
　　・在宅避難の提唱、必要条件について
　　・在宅避難と共助について
　　・個人的、組織的な共助について
　　⑤個人ワーク
　　・在宅避難の必要条件に関して、自身が不安なところ
　　・在宅避難の注意点に関連して、自身が心配なところ
　　・組織的な共助について
　　⑥他地域の取り組み紹介
　　⑦グループワーク
　　・個人ワークを基に意見交換
　　⑧発　表
　　⑨質疑応答
　　⑩講　評
　　⑪閉　会
（６）成果物
　　①写真

②講義資料

せたがや災害ボランティアセンター

烏山地区防災塾

共助で生かす烏山の命

社会福祉法人世田谷ボランティア協会
せたがや災害ボランティアセンター

せたがや災害ボランティアセンター

震災時の避難形態

1　在宅避難
2　避難所避難
3　被災地外への避難
　近郊避難（通勤可能圏内）／遠隔避難
　自主避難／公助を背景とした避難

1

せたがや災害ボランティアセンター

世田谷ボランティア協会と在宅避難の提唱

被害想定と避難所の受入れ能力

避難所生活の難点

在宅避難の優位性

2

せたがや災害ボランティアセンター

なぜ在宅避難が良い？

・プライバシーが確保できる
・住み慣れた（日常に近い）環境で生活できる
・家族とペットが一緒に過ごせる
・感染症のリスクが低くなる
・ストレスが少ない
・安心安全（防犯）
・避難所の備蓄品は足りない
・避難所の衛生環境は悪くなりがち
・日々の暮らしが復旧復興につながる

3

せたがや災害ボランティアセンター

在宅避難の必要条件を満たすこと

1　安全な居住空間があること
　①建物が現存し、延焼火災の恐れがなく、倒壊等の恐れがないこと
　②室内の居住性（特に寝室・トイレ）
2　大きなケガをせず、身が安全であること
3　生活物資の備蓄があること
4　不可欠な医療・福祉サポートが受けられること
　（人工透析、在宅酸素療法、妊産婦、デイサービス、訪問介護など）

4

せたがや災害ボランティアセンター

在宅避難と共助

1　在宅避難には
　なぜ共助が必要なのか

5

せたがや災害ボランティアセンター

在宅避難そのものに内在する注意点がある

①被災地であるため、準備・備蓄のない場合は過酷な生活
②毎日被災状況の中にいるため身体・こころがダメージを受ける
③栄養不足・運動不足になりやすい
④閉じこもり傾向になる人もいる
⑤外部からは被災状況や困りごとが見えにくい
⑥要支援者、要配慮者の状態悪化、支援・配慮の遅れや漏れを生じかねない
⑦情報が届かず孤立化することもある

放置するとダメージとして蓄積

6

せたがや災害ボランティアセンター

2 注意点を薄めるために必要なこと

①安否確認（継続的に）
②医療サービス・福祉サポートの手配
③物資の確保
④ふれあい・話し合い
⑤困りごとの相談
⑥災害関連情報の入手
⑦健康管理、運動

7

せたがや災害ボランティアセンター

3 個人レベルでの共助

友人・知人・近隣同士などで可能な範囲で助け合うこと

①普段から助け合いの心を大切に
②災害時の困りごとをしっかり想像し、助け合う方法を話し合おう
③ご近所にも関心を持って付き合いを

8

せたがや災害ボランティアセンター

4 組織的な共助

コミュニティの力で組織的に行う共助。まず１カ月を乗り切ろう

①共助の拠点
指定避難所をその地区の共助活動の拠点とするのも一方法
（2018年度防災シンポジウム「避難所の現実と可能性」で提案）

②共助の組織
活動を担う組織は・・・避難所運営委員会／町会・自治会
活動を担う人は・・・地域の住民ボランティアなど

③共助のための区割り
居住地域、軒数を考慮してブロックを決める
マンションなどの集合住宅は一棟またはその各階を1ブロックとする

9

せたがや災害ボランティアセンター

【具体的な活動の例】

①在宅避難の初期情報の収集
在宅避難家庭かどうかの確認、安否の確認、要支援者・要配慮者の確認
⇒情報収集した結果を拠点隊と共有
②生活物資の配給
③定期的な安否確認
定期的な巡回訪問による声掛け、安否の確認
④重要な情報の提供
公的な情報、復興情報、生活情報、支援情報など
⑤ふれあいの場の開設
⑤在宅避難者からの相談に対応
⑥拠点隊（まちづくりセンター）との連携

10

せたがや災害ボランティアセンター

グループワーク

【個人ワーク】
・在宅避難の必要条件のうち
あなたにとって不安なところは？
・在宅避難の注意点に関連して
あなたが心配な点はありますか？
・地域の組織的な共助をどう思う？

【グループワーク】
・一人ひとりが発表し
全員で話し合う

11

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日　付	令和5年11月25日
地　区	烏山

１－１）ご自身について（性別）

	①男性	②女性	③未記入等
数	5	7	2

１－２）ご自身について（年齢）

	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代以上
数			1	2	3		3	2

１－３）ご自身について（職業）

	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数	1		2	1	4	3	4	2

２　今まで参加した防災塾の開催年度について

	①令和元年度（平成３１年度）以前	②令和２年度	③令和３年度
数	0	0	0

３　防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。

	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない
数	3	9	1		

４　上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。

・もっと細かく話せると良い。・色々な立場の方からの意見が聞けて良かった。・時間が少なかった。

・限られた時間での話し合いだったので、まだまだ出てきそうだと思った。

５　防災塾に参加して学んだことや気づいたこと

	数		数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	3	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	7
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	2	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	7
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	8	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	3
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	10		

６　今後の希望する「防災塾」の進め方について

	数		数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	9	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	3
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	4	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	6
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	2	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	5
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	7	⑨その他（同じ地区での問題点での見直し）	1
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	6		

7　地区防災計画制度がつくられたが、本制度の内容はご存知ですか。			
	数		数
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	3	④言葉は聴いたことがあるが詳しくは知らない。	4
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。		⑤全く知らない。	4
③防災塾で説明を聴いたことがあり、ある程度は知っている。	1		

8　平成２９年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。		
	①知っていた	②知らなかった
数	2	10

9　地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと			
	数		数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険個所や地域資源の発見と整理	5	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	6
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	7	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	4
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	5	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	7
＜その他＞			

10　防災塾に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	4	7	1		

11　「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。
・参加してみると大切なことだ分かるので、もっと色々な人に参加してもらった方が良い。・防災塾に参加させていただいて防災に関する意識が高まりました
・自助、限定された共助には限界があるので、行政としてどうやって効果的な情報提供ができるか前向きにご検討願いたい。
・とても大切なことを学べる機会なのでもっとたくさんの住民の方が参加できると良いと思います。
・他の地区のアイデア、話を聞けてよかったですが、なかなか解決できない事もあり、まだまだ心配事もありそうです。皆さんの意見を聞けて知らない事も
知れて良かったです。・共助≒在宅避難について学ぶこと、考えることができました。
・貴重な話を聞けて良かった。年代によって問題点も違うことがわかり自分で何ができるかの再考につながりました。より具体的な内容を学ぶ機会があれば
良いと思う。若い世代への広報の必要性を強く感じました。・共助の大切さが良く分かりました。自助の方法ももっと知りたかったので、調べてみます。
在宅避難できる様に見直していきたいです。・とても参考になりました。・グループワークは良い。１人でも理解者を増やすのに良い。

令和5年度 防災塾 報告書

令和6年 4月

編集・発行 世田谷区 危機管理部 災害対策課
電 話 03－5432－2262
FAX 03－5432－3014